東京国立博物館ニュース

創立150年記念特別号

TOKYO NATIONAL MUSEUM 150 1872-2022

裏表紙に掲載してるほ！

展示と催し物案内
第770号
2022
9·10·11

創立150年記念事業特集

……2～9

令和4年（2022）年、東京国立博物館は創立150年を迎えました。明治5年（1872）、東京・湯島聖堂大成殿で開催された博覧会が当館の歴史のはじまりです。いつの時代も、私たちの使命は、文化財を大切に守り、次の世代へ伝えることです。東京国立博物館ニュースもその役割の一端を担っており、今後も文化財の魅力や、博物館の楽しさを、お伝えしてまいります。

創立150年記念特別号である本号は、20ページの拡大版です。特別展、特集展示、総合文化展、教育事業、各種イベント等、年間通して開催するさまざまな創立150年記念事業をご紹介します。

表紙の名品「金剛力士立像」

0年記念　特別展

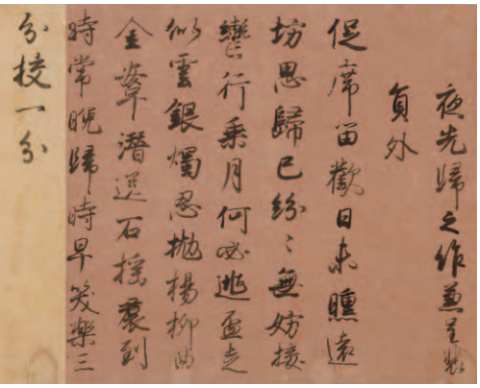
物館のすべて」

平成館特別展示室

「150年の歴史」

館の国宝」と「第2部 東京国立博物館の150年」

てを公開。国宝の刀剣19件が通期でご覧いた
から令和に至る150年の歴史を3期に分け、各
150年前の湯島聖堂博覧会や東京帝室博物館時
ただけることでしょう。
品を選りすぐってご紹介します。



（部分）

◉白氏詩巻
藤原行成筆
平安時代・寛仁2年（1018）
展示期間：11月15日（火）～12月11日（日）

跡を

日本書跡の国宝といえば、「白氏詩巻」です。筆者の藤原行成（972～1027）は平安時代の公卿で、「三跡」と称される能書であり、和様の書を大成した人物として尊重されてきました。「白氏詩巻」は行成47歳の真跡で、色変わりで継いだ料紙に『白氏文集』巻六十五から8篇の漢詩がのびやかに書写されています。楷行草の調和、墨の濃淡などがバランスよく配置された和様の書の代表作。伏見天皇や霊元天皇が愛好した書です。

（恵美千鶴子）

てわかる、注目

上：◉刀　金象嵌銘 城和泉守所持 正宗磨上 本阿（花押）
相州正宗　鎌倉時代・14世紀

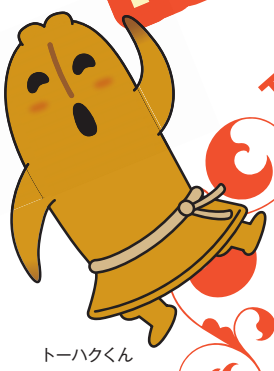
下：◉太刀　銘 吉房（岡田切）
福岡一文字吉房　鎌倉時代・13世紀

備前国（岡山県）・福岡一文字派の吉房と、相模国（神奈川県）・正宗の代表作です。どちらも力強い作風が見どころですが、吉房は華やかな刃文によって刀身が気を発しているような印象を与えるのに対し、正宗は鍛えによって地鉄の模様や刃文の働きを強調することで内に秘めた力強さを感じさせます。こうした違いは、実物を見比べて感覚的に理解できるもので、写真や言葉では伝えきれません。本展を通して、日本刀のもつ美しさ、気高さ、凄味を感じていただければと思います。

（佐藤寛介）

創立150年記念事業特集

TOKYO NATIONAL MUSEUM
150
1872–2022



トーハクくん

ユリノキちゃん
東京国立博物館
公式キャラクター

東京国立博物館 創立150年に寄せて

「新しい一歩を、あなたと。」――本年4月から、東京国立博物館創立150年記念事業がスタートしました。これまでの軌跡をみつめ直し、皆様と共に、新しい一歩を踏み出した企画の数々はいかがでしょうか。日本で最も長い歴史と伝統を持ちながら、常に新しいことに挑戦する博物館が東京国立博物館です。当館が所蔵する89件の国宝すべてを公開する特別展の開催、研究員が「未来の国宝」と銘打ち推す作品の展示をはじめ、意欲的な特集展示の数々、そして、「バリアフリー」を進める博物館教育活動の実施により、誰にとっても身近な博物館として、また歩み出したい、そして歩み続けたいと思います。当館の更なる歩みにご期待ください。

東京国立博物館長　藤原 誠

※◉は国宝、◎は重要文化財（重文）、○は重要美術品（重美）を表します。特に表記のないものは東京国立博物館蔵です。

東京国立博物館創立15

「国宝 東京国立博

10月18日（火）～12月11日（日）

キーワードは「89件の国宝」と

創立150年を記念して開催する本展では、「第1部 東京国立博物
の2部構成で当館の全貌を紐解きます。

第1部では展示替えを挟みながら当館が所蔵する国宝89件すべ
だける「国宝刀剣の間」も見どころです。そして第2部では、明治
時代の収蔵作品や関連資料などから、当館の歩みをたどります。
代の再現展示などを通して、当時の人々の驚きや感動を追体験い

本号では、計150件の展示作品から、研究員おすすめの展示作

第2部

教科書でもお馴染みのあの人？

鎌倉幕府を開いた初代将軍の源頼朝と伝えられる肖像彫刻です。狩衣をまとい指貫という袴をはくのは武家の略式の正装ですが、直線的に仕上げた装束や両脚を倒した坐り方は、当時の貴族の肖像画を手本にしたものでしょう。顔の柔らかな肉付きや固く結んだ唇が表情に生気を与え、正面をまっすぐに見据えた姿は武人にふさわしい威厳をたたえています。源頼朝と由縁の深い、神奈川・鶴岡八幡宮境内の白旗神社に伝来したとされています。（増田政史）

◎伝源頼朝坐像
鎌倉時代・13～14世紀

第2部には歴史を物語る作品が目白押し

始まりはここから

当館の始まりである湯島聖堂博覧会を描いた錦絵です。美術工芸品に加え、動植物や鉱物の標本など、全国から集められたさまざまなものが所狭しと並べられています。中でも名古屋城の金鯱が大人気でした。

古今珎物集覧　一曜斎国輝筆　明治5年（1872）

約100年ぶりに里帰り

当時のキリン剝製標本展示の様子

東京帝室博物館時代に天産（自然史）資料として展示されていた２頭のキリン剝製標本。本展では、現存するオスのキリン「ファンジ」の剝製標本（写真左・国立科学博物館蔵）を約100年ぶりに里帰り展示します。

皇室ゆかりの品も登場

鳳輦は天皇が行幸の際に座乗される乗物で、屋根に鳳凰の像が飾られています。本品は江戸末期に孝明天皇が用いられ、明治初年には明治天皇が東京に行幸される際に用いられたものです。

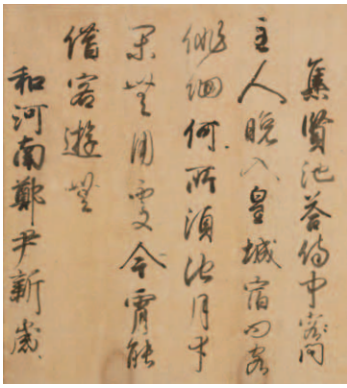
鳳輦　江戸時代・19世紀

第2部

皇室とのつながりを示す、風雅な下絵

各国の賓客をお迎えする場として知られる迎賓館赤坂離宮（もとは東宮御所）。設計・総指揮は当館の表慶館と同じ片山東熊によるもので、当館とは縁が深いといえます。その花鳥の間内壁を飾る七宝額の下絵が本作品。渡辺省亭による作画は、洋風表現を取り入れた精緻な写実的描写と豊かな色彩が魅力です。現在の本館が開館した昭和13年（1938）に宮内省より引き継がれました。（沖松健次郎）

赤坂離宮花鳥図画帖のうち淡紅鸚哥に科木
渡辺省亭筆　明治39年（1906）頃
展示期間：10月18日（火）～11月13日（日）



第1部

これぞ、日本書代表する名品

第1部

実物を前にし両者の違いに

観覧料：一般2,000円、大学生1,200円、高校生900円　展覧会公式サイト https://tohaku150th.jp/　お問合せ：050-5541-8600（ハローダイヤル）
※本展は事前予約制（日時指定）です。詳細は展覧会公式サイト等でお知らせします。　※中学生以下は無料（ただし事前予約が必要。入館の際に学生証をご掲示ください）
※障がい者とその介護者１名は無料（事前予約不要。入館の際に障がい者手帳等をご提示ください）
※「第１部　東京国立博物館のすべて」出品作品の展示期間の詳細は、左の二次元コードからご覧いただける「国宝89件一覧」をご確認ください。

※特別展、総合文化展、催し物につきましては、今後の諸事情により予告なく変更する場合がございます。最新情報は当館ウェブサイトをご覧ください。

特集 東京国立博物館の模写・模造
―草創期の展示と研究―

本館特別1室・特別2室　9月6日㊋～10月30日㊐

草創期の東京国立博物館では、多くの模写・模造がつくられました。本特集では、明治5年（1872）の博物館の創立以降、昭和22年（1947）に国立博物館となるまでに制作された模写・模造作品を精選して展観します。

模写・模造というと、「本物」ではない、価値の低いものと考えられがちです。ただ、これらの作品がなぜこの時期につくられたのかを考えてみることは、東京国立博物館150年の歴史を紐解くヒントになるはずです。

さまざまな文化財を後世へと守り伝えていきたい。今の私たちにも大きな共感を呼ぶ当時の関係者の情熱が、これら模写・模造作品に込められています。

（土屋貴裕）

著名な彫刻の写生

伝平清盛坐像（写生）

横山大観筆
明治31年（1888）以前
原品：鎌倉時代・13世紀
京都・六波羅蜜寺蔵
展示期間：10/4㊋-10/30㊐

岡倉天心の推進した模写事業で作成された、彫刻写しの個性的な作例

原品は特別展に出品

舟橋蒔絵硯箱
本阿弥光悦作（模造）

溝口三郎模　大正14年（1925）
原品：江戸時代・17世紀
東京国立博物館蔵
展示期間：10/4㊋-10/30㊐

漆工品の修理・模造を手掛け、当館工芸課長も務めた溝口三郎の作です

※原品は東京国立博物館創立150年記念 特別展「国宝 東京国立博物館のすべて」（→2・3ページ）で10月18日（火）～11月13日（日）まで展示します。

原本は正倉院北倉にて保管

鳥毛篆書屏風（模造）

内務省博物局模　明治10年（1877）頃　原本：奈良時代・8世紀、正倉院宝物
展示期間：9/6㊋-10/2㊐

パリ万博（1878年）に出品するためにつくられた、最初期の模造のひとつです

特集 未来の国宝
―東京国立博物館 彫刻、工芸、考古の逸品―

彫刻：本館11室　～12月25日㊐
工芸・考古：本館14室　9月6日㊋～12月25日㊐※

※3期にわたり1件ずつ展示します。（[1期] 9/6㊋-10/10㊊・㊗、[2期] 10/12㊌-11/13㊐、[3期] 11/15㊋-12/25㊐]）

未来に受け継いでいくべき国民共通の宝として、研究員が選び抜いたイチ推しの彫刻・工芸・考古分野の作品を展示する特集「未来の国宝」。各分野から選んだ作品をご紹介します。彫刻分野は、重要文化財 菩薩立像（→16ページ）です。目や唇に水晶の薄い板をはめるなど、鎌倉彫刻らしい現実感のある表現が特徴です。考古分野は、重要文化財 白瑠璃椀を展示します。ササン朝ペルシアでつくられた、正倉院宝物と瓜ふたつのカットグラスです。工芸分野は、漆工芸から、吉野宮蒔絵書棚をご紹介します。漆芸、金工の細部にわたる数々の技法の競演は必見です。また、陶磁作品は、青磁盤をご覧いただきます。北宋末に宮廷の命で焼かれた汝窯の名品を日本で鑑賞できる数少ない作品です。　（山本亮）

シルクロードを通ってはるばる日本へ

◎白瑠璃椀

ササン朝ペルシア　古墳時代・6世紀　大阪府羽曳野市 伝安閑陵古墳出土
クラブ関西寄贈　展示期間：[1期] 9/6㊋-10/10㊊㊗
内箱・外箱をあわせて展示するとともに、出土以来辿った物語もご紹介します

豪華な素材や技法の数々

吉野宮蒔絵書棚

江戸時代・18世紀
展示期間：[2期] 10/12㊌-11/13㊐
濃密な蒔絵と珊瑚に七宝、技術を極めて贅を尽くしたその果てがこちらです

日本で見いだされた貴重な汝窯青磁

青磁盤

中国・汝窯　北宋時代・11～12世紀
川端康成旧蔵　香取國臣氏・芳子氏寄贈
展示期間：[3期] 11/15㊋-12/25㊐
かつて川端康成が愛蔵したもので、自身による「康成」の箱書が残っています

（箱書部分）

特集 再発見！大谷探検隊とたどる古代裂の旅

東洋館5室　9月21日㊌～12月4日㊐

当館所蔵の大谷探検隊将来の出土染織品は、吉川小一郎（1885～1978）、橘瑞超（1890～1968）らの、第三次探検隊によるものです。主に中国・甘粛省敦煌や新疆ウイグル自治区トルファンで収集された裂からは、シルクロードに沿って発達したオアシス都市の染織文化をうかがい知ることができます。6世紀から10世紀の染織品が残されていることは奇跡的なことです。

本特集では、各作品の染織の技術や文様だけでなく、推定される用途にも着目します。多彩な染織を通して、ユーラシア大陸の東西をつなぐ要所として発展した敦煌、トルファンの文化を示しながら、大谷探検隊によって発見された古代裂の旅をたどります。

（沼沢ゆかり、廣谷妃夏）

ふたつの絹織物が縫い合わされた幡

幡　淡茶地花文夾纈平絹・淡茶地平絹縫い合わせ

吐蕃～曹氏帰義軍期敦煌・8～10世紀　中国・敦煌
莫高窟　大谷探検隊将来品

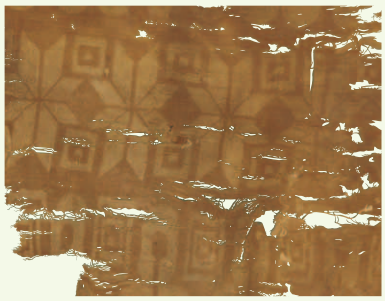
寺院を装飾する幡の断片で、菱文様は板締め（夾纈）で染められています

独特な文様が目を引く

赤茶地幾何花文錦

麹氏高昌国時代・6世紀～7世紀前半
中国・トルファン
アスターナ・カラホージャ古墓群出土
大谷探検隊将来品

埋葬された女性の衣服で、大胆な文様がオアシス都市の染織文化を伝えます



（部分）

唐時代の華麗な刺繍技術

刺繍如来立像・唐草文断片

唐時代・8世紀　伝中国・敦煌莫高窟あるいはムルトゥク出土
大谷探検隊将来品　梅原龍三郎氏寄贈

約1300年前のものですが、鮮やかな色彩が残る華麗な繍技に注目！

日中国交正常化50周年

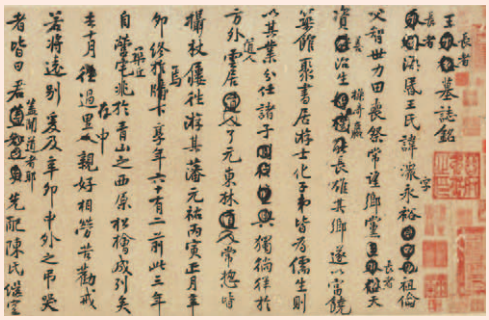
特集 中国書画精華

―宋代書画とその広がり―

東洋館8室　9月21日㊌～11月13日㊐

毎年秋の恒例企画となっている、中国書画の名品展を開催します。日中国交正常化50周年、東京国立博物館創立150年にあたる本年は、当館が所蔵・管理する中国書画コレクションのなかでも、古くから日本と中国で古典として特に愛されてきた、北宋時代（960～1127）・南宋時代（1127～1279）の作品に焦点をあてました。「宋代書画とその広がり」と題して、高潔な人格と深遠な学識に裏打ちされた、士大夫・禅僧の書画、および高い技術力に支えられた優美な宮廷絵画・仏教絵画を展示します。これらの宋代書画にみられる高い芸術性と、後世の作品に与えた影響についてご紹介します。

（植松瑞希）



（部分）

自然体の書の名品

行書王史二氏墓誌銘稿巻　黄庭堅筆

中国　北宋時代・11世紀　展示期間：9/21㊌-10/16㊐

宋の四大家に数えられる能書、黄庭堅の平生の字姿を伝える貴重な作例です

行書に優れた米芾の代表作

行書三帖巻　米芾筆

中国　北宋時代・11～12世紀
展示期間：10/18㊋-11/13㊐

宋の四大家のひとり、米芾による3種の名跡を合わせた書巻です。修理後初公開です

（部分）

（部分）

西域から献上された5頭の名馬

○五馬図巻　李公麟筆

中国　北宋時代・11世紀
展示期間：10/18㊋-11/13㊐

宋を代表する文人画家、李公麟の傑作で、当館蔵中国絵画中の白眉。修理後初公開です

特集 東京国立博物館のイスラーム陶器

東洋館5室　10月4日㈫～2023年1月22日㈰

イスラーム陶器とは、およそ9世紀から、現在のイラン、イラク、シリア、エジプト、トルコを中心とした地域で焼かれたやきものを指します。その多くは、藍釉や白釉、緑釉を掛け、釉下彩や線刻、貼付けなどの技法を駆使して華やかな装飾を施し、独特の魅力をそなえています。そして近年の研究成果により、地域性や時代ごとの特色がより鮮明になってきました。

当館には大正、昭和初期に収められた貴重なコレクションがあり、さらに戦後の購入や寄贈によって収蔵品が充実しました。本特集はそのイスラーム陶器コレクションをまとめて展観する初めての試みです。中国や日本、ヨーロッパの作品と比較するコーナーも設けています。どうぞお楽しみに。

（三笠景子）

独創的なフォルムと色づかい

多彩鳥形手付瓶

イラン　イル・ハーン朝・13世紀中頃～14世紀中頃
横河民輔氏寄贈

中国陶磁の収集家として著名な横河民輔氏によって寄贈された珍しいイスラーム陶器です

いきいきとした騎馬の描写

ラスター彩騎馬人物文壺

イラン、カーシャーン
ホラズム・シャー朝・1170年代末～1200年頃

イランでは13世紀頃に至り、白くて丈夫なフリット胎土（人工胎土）によって彩色が一段と美しく進化します

筆づかいと釉薬が見どころ

青緑釉黒彩鉢

シリア、ラッカ
アイユーブ朝・13世紀

銅を呈色剤に用いたアルカリ釉の青緑釉と、流れるような黒の線文が印象的です。陶磁研究家の佐藤進三氏旧蔵品です

特集 つたえる、つなぐ
―博物館広報のあゆみ―

平成館企画展示室　9月27日㈫～11月6日㈰

本特集では、当館がこれまで制作してきた広報用制作物の中から、創立当時の博覧会で使用された観覧券や案内の摺物をはじめ過去の展覧会のポスター、博物館の案内パンフレット、国立博物館ニュース、さらに当館ウェブサイトの歴史など近年の活動もご覧いただきます。時代とともに変わるデザインや表現の変遷、あるいは情報発信のかたちなど、広報活動のあゆみを通して、一般社会と東京国立博物館とのコミュニケーション活動の歴史を概観し、博物館の歴史の一面をご紹介します。

あの日みたあの展覧会、あの時訪れた博物館を、当時の皆様の思い出と重ねて、ご自身のストーリーに思いを馳せていただければと思います。

（鬼頭智美）

明治版の展示案内

博覧会図式

宝来堂　明治5年（1872）
湯島聖堂博覧会の見どころを案内した摺物です

「みんなの博物館」への第1歩

国立博物館ニュース創刊号

昭和22年（1947年）
戦後「国民のための博物館」として再出発してすぐに創刊しました

開催告知に特化したシンプルなデザイン

モナ・リザ展　ポスター

昭和49年（1974年）
当館の歴代特別展入場者数トップの展覧会ポスターは基本情報のみを記載しています

特集 根付（ねつけ） 郷（ごう）コレクション

本館12室　11月2日㊌～2023年1月22日㊐

根付とは、印籠などを腰に提げるときに用いる留め具です。今からちょうど80年前、実業家の郷誠之助（ごうせいのすけ）氏（1865～1942）から江戸時代の根付を中心とするコレクションが一括寄贈されました。本特集では、国内外で高く評価される「郷コレクション」根付のすべてを展示いたします。（福島修）

思わず触れたくなる愛らしさ

兎牙彫根付（うさぎげちょうねつけ）
線刻銘（せんこくめい）「懐玉齋刻（かいぎょくさいこく）」
江戸時代・19世紀　郷誠之助氏寄贈
いまにも鼻をひくひく動かしそうな生動感。眼球の薄桃色も魅力です

凝縮された仙人の力

鉄拐仙人木彫彩色根付（てっかいせんにんもくちょうさいしきねつけ）
吉村周山作　江戸時代・18世紀
郷誠之助氏寄贈
鉄拐が魂を吹き出したところ。そのまなざしの先が見えるでしょうか？

特集 高円宮殿下二十年式年祭記念
根付（ねつけ） 高円宮（たかまどのみや）コレクション

平成館企画展示室　11月15日㊋～12月25日㊐

「高円宮コレクション」は、故・高円宮憲仁親王殿下（のりひとしんのうでんか）（1954～2002）が蒐集された現代根付を中心とするコレクションです。殿下の二十年式年祭にあたる本年、「高円宮コレクション」全500件を1度に公開いたします。多種多様な小さな造形の、趣向を凝らした「ひねり」に注目です。（福島修）

さまざまな角度から楽しんで

八方にらみ 双梟（はっぽうにらみ そうきょう）
中村雅俊作
昭和45年（1970）
高円宮コレクション
どこから見ても親梟の目が見る人を追ってきます。子梟はどこを見ているのでしょうか

見事なまでの躍動感

蘭陵王（らんりょうおう）
東声方作
平成4年（1992）
高円宮コレクション
黄楊材（つげざい）を用いて、緻密な刀技を見せています。サイズ感を忘れる迫力です

特集 古代染織（こだいせんしょく）の保存（ほぞん）と修理（しゅうり）
―50年（ねん）にわたる取（と）り組（く）み―

法隆寺宝物館第6室　10月18日㊋～12月11日㊐

奈良県法隆寺には、飛鳥から奈良時代に制作された多くの染織品が伝わっています。その多くは「法隆寺献納宝物」として明治11年（1878）に皇室へ献納され、現在は当館が所蔵しています。およそ1300年の時を経て、裂の多くは劣化が進み、触れば崩れてしまう作品も少なくありません。断片化し、複数の作品が相互に混入した状態にある染織品もあり、修理を行うにも困難な状況が続きました。昭和47年（1972）に修理や保存方法に関する懇談会が開催され、同年から本格修理が始まり、今年で50年の節目を迎えます。本特集では貴重な古代の染織品を適切な状態で未来に伝えるべく、これまで行ってきた当館での修理事業の軌跡をご覧いただきます。（沼沢ゆかり）

（部分）

墨書で「東大寺」、朱書で法要に用いられた旨が記されています

（幡頭部分）

刺繍や金糸の縁取りを加えた壮麗な幡

羅道場幡（らのどうじょうばん）
正倉院伝来　奈良時代・天平勝宝9年（757）
幡頭（ばんとう）の一部に、聖武天皇の一周忌法要に用いられた旨が記されています。正倉院には同様の幡が残欠を含めて数百あり、壮麗な儀式の様子がしのばれます

全長12メートルを超える大型の絹製幡

広東綾大幡（かんとんあやだいばん）　飛鳥～奈良時代・7～8世紀
元正天皇（げんしょうてんのう）が亡き元明天皇（げんめいてんのう）のために奉納したものと考えられます。この帯紐状（おびひもじょう）の幡頭（ばんとう）は当初は鮮やかな錦であったのでしょう。先端には糸房を付けた山形の金銅透彫金具（こんどうすかしぼりかなぐ）を飾っています

もっと家族で楽しもう！

教育普及プログラム

創立150年記念事業特集

創立150年を迎えた当館では、お子様向けのイベントや教育普及事業に一層力を入れて実施しています。これまでにも多くのファミリーにご参加いただきました。今回は、そのプログラムの一部をご紹介します。

月イチ！トーハクキッズデー

実施期間：2023年3月26日(日)までの毎月第4日曜日
対象：0歳～中学生とその保護者(小・中学生だけでの参加可)
入館料：一般1000円／大学生500円
※高校生以下は無料、特別展は別途料金が必要

「うちの子、こんなに集中しているのを見たことない！」キッズデーでは、そんな声もよく聞こえてきます。好きな作品を見つけたり、イベントに参加する中で、お子様の意外な一面や成長した姿が見られるかもしれません。館内はベビーカーのままご観覧いただけます。また、おむつ替え等もできるキッズスペースもございます。ご家族で庭園散策もおすすめです。

イベントの詳細はこちらから

9～11月のイベント

＊イベントは追加、変更する場合があります。イベントの詳細は当館ウェブサイトをご確認ください。
※1 オンライン配信終了後から30分間は随時ハンズオン体験可(本館特別4室)
※2 詳細は本ページ左下をご覧ください。

日程	イベント	場所	時間
9月25日	紙芝居「かぐや姫」	本館18室	10:30、12:00、14:00、15:30（約30分）
	よろいのひみつ	オンライン	11:00、14:30（約30分）※1
	うるし体験ペーパークラフトプリントサービス	本館特別4室	10:00～17:00（随時可）
	トーハク笑楽座	平成館大講堂	12:30、15:30（約1時間）
	ファミリーコンサート(チェロ：笹沼樹)	平成館ラウンジ	14:00（約1時間）
10月23日	ぶつぞう調査隊	集合場所：本館エントランス	10:00、11:30、13:30、15:00（約20分）
	紙芝居「じごくのそうべえ」	本館18室	10:30、12:00、14:00、15:30（約30分）
	うるし体験ペーパークラフトプリントサービス	本館特別4室	10:00～17:00（随時可）
	トーハク劇場へようこそ！～博物館の誕生編～ ※2		11:00、14:30（約1時間）
	笑おう！楽しもう！こども落語体験	平成館大講堂	12:30、15:30（約1時間）
11月27日	ぶつぞう調査隊	集合場所：本館エントランス	10:00、11:30、13:30、15:00（約20分）
	トーハク笑楽座	平成館大講堂	11:00、13:30（約1時間）
	さわってみよう！考古ハンズオン	平成館考古展示室前	10:00～16:30（随時可）
	アジアの占い体験	東洋館6室「オアシス」	11:45～15:00（随時可）
	はじめてのお茶室たんけん	九条館	10:30、14:00、15:30（約20分）

さわってみよう！考古ハンズオン

はにわの立体型パズルや、小判のレプリカにさわって、つくり方や重さを体感できます

よろいのひみつ

オンライン配信後、よろいに触れたり、兜をかぶることができます

事前申込制 ［ウェブサイトフォーム］

トーハク劇場へようこそ！ ～博物館の誕生編～

お子様に大人気のお芝居仕立てのツアー。今回は創立150年スペシャルバージョンです。150年前、どんな想いを込めて当館をつくったのか、初代館長の町田久成(まちだひさなり)たちが熱く語ります。

日時：10月9日(日)、10日(月・祝)、23日(日)、11月3日(木・祝)
各日11:00～12:00、14:30～15:30の2回実施
対象：小学生とそのご家族

※申込方法等、詳細は当館ウェブサイトをご確認ください。

映像版「トーハク劇場」

11月6日(日)18:00に、今回の「トーハク劇場」の映像版をYouTubeプレミア公開します。詳細は11月2日(水)以降に当館ウェブサイトでご確認ください。

映像版「トーハク劇場」の撮影風景。当館の創立に関わった重要人物が登場します

みんなでつくる記念チケット

創立150年を記念して、高校生以下のお子様から当館所蔵品の絵を募集したところ、約600件ものご応募をいただきました。その中から選ばれた150の絵をデザインした「記念チケット」を、11月8日(火)から正門で無料配布します。(なくなり次第配布終了)

※本チケットはノベルティのため、ご入館いただくことはできません

作品を描くことで、当館に親しみをもっていただけたなら嬉しいです

手でみるトーハク「漆(うるし)の塗(ぬ)りと飾(かざ)り」

漆の「塗り」、蒔絵などの「飾り」の技を、触りながら楽しく知ることができるボードが、本館特別4室「日本文化のひろば」に仲間入りしました。点字解説つきです。

飾りに使う素材で手触りも変わります。手でみた後は、展示室で実際の漆の作品もご覧ください

報告 これまでの月イチ！トーハクキッズデー

トーハクキッズデーでは、展示室での読み聞かせや、ワークショップへの参加など、初めて当館を訪れたお子様も、たくさんの刺激を受けてお楽しみいただけたようです。毎月訪れてトーハクコレクションカードを集めるお子様もいらっしゃいました！

トーハクコレクションカード
カードの作品は毎月変わります。
※毎月キッズデーで配布中。各日なくなり次第配布終了となります。写真は4月のカードです

読み聞かせ「牛若丸(うしわかまる)」
展示作品を見ながら、熱心に話を聞いていました ※本イベントは終了しました

創立150年記念事業では新たな試みにも取り組んでいます。この記念の年に行う特別なイベントの一部をご紹介いたします。

リアル脱出ゲーム　東京国立博物館からの脱出

開催中～来春（予定）　東京国立博物館構内

構内を巡り作品の声を聞きながら不思議な出来事の真相解明を目指す、体験型謎解きイベントを開催中です。本イベント参加には、専用キットの購入やご自身のスマートフォン・イヤホンが必要です。

料金：謎解きキット代2,200円
（別途参加当日の入館料が必要です）
イベント参加所要時間：2～3時間（目安）

※謎解きキットのご購入、参加方法等の詳細は、
株式会社SCRAPのウェブサイト（https://realdgame.jp/tnm/）をご覧ください。

「踊る埴輪＆見返り美人　修理プロジェクト」ミクグッズを販売します

皆様からのご支援で文化財修理を行う修理プロジェクトの一環として、初音ミクと「見返り美人図」がコラボレーションした「見返り美人ミク」グッズを館内ミュージアムショップやウェブサイトで販売します（9月上旬から販売予定）。キービジュアルにはミクが鮮やかな振袖をまとい、ふと足を止め振り返る一瞬が描かれています。
売り上げの一部は、修理プロジェクトへの寄附となります。購入を通じて、貴重な文化財を未来につなげる活動に参加しませんか？

プロジェクトの
詳細はこちらから

「見返り美人ミク」キービジュアル
Art by Rella © CFM

創立150年記念郵便ポストを設置しました

創立150年記念ロゴマークのモチーフ「唐草文」をあしらったポストを正門前に設置しました。除幕式には、日本郵便株式会社のオリジナルキャラクター・ぽすくまと、当館広報大使のトーハクくんも登場。ご来館の思い出づくりに、どうぞご利用ください。

5月23日、除幕式の様子

特殊切手が発行されます

日本郵便株式会社より、国宝シリーズ第3集として当館創立150年を記念した特殊切手が10月12日（水）に発行されます。どの国宝が選ばれたか、どうぞお楽しみに。

東京国立博物館創立150年記念特別企画　デジタル技術×日本美術体験

未来の博物館 Museum of the Future

Experience Japanese Art through Digital Technology
Tokyo National Museum 150th Anniversary Special Thematic Exhibition

10月18日（火）～12月11日（日）
本館特別3・5室
東洋館エントランス

本展は3つのテーマで構成する体験型の特別企画です。デジタル技術と日本美術のコラボレーションにより、未来へとつながる鑑賞体験を実現します。

第1会場　時空をこえる8K　本館特別5室
国宝「洛中洛外図屏風（舟木本）」に描かれた400年前の京都が、8K大画面映像で目の前に。その場にいるような感覚で町を散策できます。

第2会場　四季をめぐる高精細複製屏風
本館特別3室
国宝「観楓図屏風」など、屏風に描かれた四季を感じる鑑賞体験を、高精細複製品へのプロジェクションマッピングでかなえます。

第3会場　夢をかなえる8K　東洋館エントランス
名碗を手にとり、さまざまな角度から眺めたり、仏像に光をあて細部の表現を調査するなど8Kの高精細画像で、展示室では不可能な体験を可能にします。

150年後の国宝展
――ワタシの宝物、ミライの宝物

11月2日（水）～2023年1月29日（日）
表慶館

東京国立博物館の創立から150年、日本社会は大きく変化しました。これまでの150年の間に親しまれた宝物、これからの150年後に残したい宝物、皆様が150年後に伝えたい宝物を展示するイベントです。

博物館でアジアの旅 アジア大発見！

9月21日(水)～10月16日(日)
東洋館

東洋館の魅力を大発見するほ！

東洋館３室

ペリオが見た敦煌

二菩薩立像

中国、敦煌莫高窟蔵経洞　五代十国～北宋時代･10世紀
ペリオ探検隊将来品　ギメ東洋美術館交換品

敦煌莫高窟の蔵経洞が「発見」されて8年後、フランス人の探検家ペリオが自らこの地を訪れ、収集した絵画です

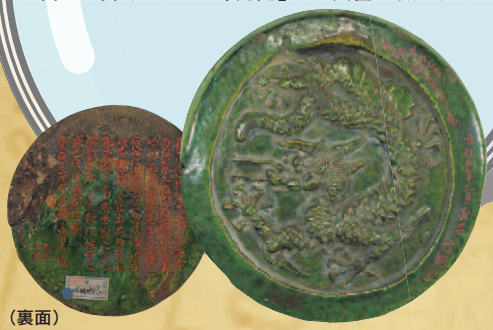
東洋館４室

若き由一の高まる鼓動を感じて

緑釉龍文軒丸瓦

中国　明時代･14～17世紀　高橋由一氏寄贈

洋画の先駆者こと高橋由一が南京で得た瓦です。裏面には自らの目でアジアを「発見」した興奮が綴られています



（裏面）

東洋館８室

仲間の龍が世界各地に

◎五龍図巻

中国、伝陳容筆　南宋時代･13世紀

もとは、より多くの龍が描かれた、長巻だったかもしれません。この長巻と同じ図様を含む龍図の巻子が、アメリカのいくつかの美術館から「発見」されています

（部分）

東洋館１０室

研究者を悩ませる貴重な鉄剣

獣面装飾付鉄剣

推定朝鮮　1世紀

獣面の両脇に龍を従えた意匠は「発見」例が少なく、その起源をめぐって今なお研究者を悩ませ続けています

（部分）

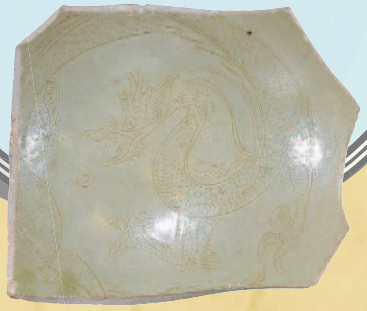
東洋館５室
10月２日(日)まで展示

毛彫りの美しい小さな陶片に往時をしのぶ

越窯址採集陶片

中国･越窯　五代～北宋時代･10～11世紀　百瀬治氏･富美子氏寄贈

呉越国が北宋王朝に納めるためにつくらせたとされる青磁の破片。窯址は日本人によって「発見」されました



毎年恒例の「博物館でアジアの旅」。
今年のテーマは「アジア大発見！」です。
作品の研究により新たに発見されたことや、探検隊が発見したものなど、
さまざまな角度から「発見」をとらえ、作品にまつわるエピソードとともにご紹介します。
この機会に、東洋館の魅力を新たに
発見してみてください。

東洋館５室

20種類以上の裂が織りなす荘厳の掛布

垂飾 平絹綾夾纈羅裂縫い合わせ

中国、敦煌莫高窟　曹氏帰義軍期敦煌･9～10世紀
大谷探検隊将来品

1912年に大谷探検隊により「発見」された祭壇の掛布です。20種類以上の裂が縫い合わされており、美しく荘厳された敦煌の仏教世界を伝えます

「博物館でアジアの旅 2022 調査ノート」を配布予定です！

※調査ノートは、期間中、東洋館インフォメーションで無料配布しています（数に限りがあります）。また、当館ウェブサイトにも掲載します。

特別企画
「大安寺の仏像」

本館11室 2023年1月2日㊊㊡～3月19日㊐

奈良・大安寺は日本で最初に国が建てた寺院として営まれ、奈良時代には多くの来日僧が住む国際色豊かな環境でした。大安寺に伝わる仏像群は、平安時代に隆盛する木彫像の先駆的な作例です。優れた身体表現や、細やかな彫りに表れる奈良時代の木彫像の魅力をご紹介します。（増田政史）

◎多聞天立像
（四天王立像のうち）
奈良時代・8世紀
奈良・大安寺蔵
◀重厚感に富む体つきの像。甲や靴に装飾的な文様が刻まれます

◎楊柳観音菩薩立像
奈良時代・8世紀
奈良・大安寺蔵
▶大安寺の木彫群の代表作。顔の筋肉や衣の質感の表現が見事です

観覧料：総合文化展料金でご覧いただけます。
※本展は事前予約不要です。混雑時は入場をお待ちいただく可能性があります。詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。

日中国交正常化50周年記念
特別デジタル展「故宮の世界」

平成館特別展示室第1・2室 7月26日㊋～9月19日㊊㊗

日中国交正常化50周年を記念して、北京の故宮博物院（かつての紫禁城）をテーマとする企画を開催します。凸版印刷が故宮博物院と共同で開発した、デジタルアーカイブデータによる再現VRコンテンツや、文化財の高精細なデジタル展示により、紫禁城の魅力に迫ります。また、紫禁城ゆかりの作品を通じて、清王朝の時代を感じていただきます。（猪熊兼樹）

紫禁城太和殿の再現 VR
製作・著作：
故宮博物院／凸版印刷株式会社
北京の故宮博物院は、かつて紫禁城とよばれ、明・清の歴代皇帝の居城でした

（イメージ）

慶豊図巻
金昆、陳枚、孫祜、丁観鵬、程志道、呉桂筆
中国　清時代・乾隆5年（1740）
皇帝の善政のもと、繁栄を楽しむ人々が緻密に描かれた、風俗図巻の名品です

（部分）

観覧料：一般1,500円、大学生900円
※本展は事前予約不要です。混雑時は入場をお待ちいただく可能性があります。詳細は展覧会公式サイト等をご覧ください。　※高校生以下および満18歳未満、障がい者および介護者1名は無料。（入館の際に学生証をご掲示ください）　※会期中、一部作品の展示替えを行います。

◎達磨・蝦蟇・鉄拐図のうち達磨図
吉山明兆筆　室町時代・14～15世紀
京都・東福寺蔵
衣文線の自己主張が激しい、明兆らしさ全開の達磨図です

◎五百羅漢図　吉山明兆筆
南北朝時代・至徳3年（1386）　京都・東福寺蔵
1幅に10人の羅漢を描き、50幅本として完成した明兆畢生の大作です

特別展「東福寺」

平成館特別展示室 2023年3月7日㊋～5月7日㊐

東福寺といえば、「紅葉で著名な京都の禅寺」というイメージが強いでしょう。もちろん、その魅力は紅葉だけではありません。応仁の乱による戦火を免れた東福寺には、日本の禅文化を体感できる文化財が膨大に守り伝えられているのです。本展では、大陸との交流を通して東福寺で花開いた禅宗美術の全容を幅広く紹介します。

とりわけ、圧倒的なスケールを放つ巨大な絵画作品は迫力満点です。それらを描いたのは、伝説の絵仏師とも称される画家・明兆。本展では、明兆による記念碑的大作「五百羅漢図」を全幅公開するとともに、奔放に墨線がひるがえる「達磨図」など、明兆の代表作を一堂にご覧いただきます。（高橋真作）

※観覧料金、入館方法の詳細は今後展覧会公式サイト等でお知らせします。
※会期中展示替えがあります。

本館

6つの詩歌が織りなす珍しいデザイン

重文 厚板 金紅片身替詩歌模様

10月25日(火)～12月25日(日)
9室 能と歌舞伎

◎厚板 金紅片身替詩歌模様
金春家伝来　江戸時代・17世紀

文字を織り出した他に例のない珍しいデザインです。元禄期頃に流行した「御家流」と呼ばれる書体で『和漢朗詠集』に掲載された6つの詩歌が表されています。左右で色が異なる片身替のデザインは室町～江戸時代初期の小袖に流行した様式ですが、中世の能を重んじて復古的に採用し、風格を加味しています。一方、この時代に流行したまばゆいばかりの金糸織を取り入れることで当世風に仕立ててあり、舞台ではさぞかし注目を集めたことでしょう。現在は男性の着付である厚板に分類されていますが、むしろ、女性役（戴物）の表着にこそふさわしい衣装です。

（小山弓弦葉）

本館

初代博物局長の僧侶の姿

町田久成像

10月4日(火)～12月25日(日)
18室 近代の美術

当館の初代博物局長（館長）町田久成（1838～1897）の肖像です。町田は薩摩藩士の出身で、文部・内務官僚などを歴任して文化財行政に尽力しました。かつて仕えた藩主、島津久光（1817～1887）の死を契機に仏門へ入り、園城寺（三井寺）の光浄院住職として晩年を過ごしたため、僧侶の姿で表されています。

本作は、17回忌にあたる大正元年に制作されました。台座裏面の銘文から、作者の竹内久一（1857～1916）は本人から与えられた「照相（写真）」を参照したことがわかります。その穏やかな表情からは、趣味の骨董を楽しんだ余生の日々が偲ばれます。

（西木政統）

町田久成像
竹内久一作　大正元年(1912)
今泉雄作氏寄贈

東洋館

運搬用であると同時に装飾性を高めるための把手

獣面鋪首

～11月13日(日)
4室 中国文明のはじまり

獣面鋪首
戦国時代・前4～前3世紀
中国河南省輝県斬将屯

獣面は周囲に巻き毛を配した逆三角形で、つり上がった目は正面を見据えています。鼻に相当する部分に円環を通しています。戦国時代、貴人は重厚な木棺に葬られ、その棺身と蓋には本品のような鋪首とよぶ金具が取り付けられました。棺を運搬する際の手がかりとみられますが、当初は金色に輝いていたので、棺の装飾性を高める効果も具備していたのでしょう。とはいえ本品の面相はどこか不鮮明です。これは固着した繊維が錆と共に表面を覆っているためです。当時は絹帯や麻縄で棺を格子状に縛るならわしでした。表面の繊維はその痕跡であり、昔日の葬法の一端を今に伝えています。

（市元塁）

東洋館

寄り添うふたり、オーラまでもラブラブ

クリシュナとラーダー

9月27日(火)～10月23日(日)
13室 インドの細密画

肌の色が青く見える人物はクリシュナといい、インド人の間で最も信仰を集めたヒンドゥー教の神様です。彼は左手で最愛の恋人ラーダーの肩を抱きかかえながら、右手で横笛を吹いています。この横笛はバーンスリーといい、北インドの音楽に欠かせない管楽器です。この絵では横笛の先がゾウの頭の形をしています。クリシュナは右手だけで横笛を吹けるほど、実は横笛の名手で、ラーダーはその音色に酔いしれています。ふたりの頭の後ろにはそれぞれ円形のオーラを表しています。そのオーラまでもが重なって、なんとなくハート形に見えるせいか、ふたりのラブラブな感じが伝わってきます。

（勝木言一郎）

クリシュナとラーダー
ジャイプル派　インド　19世紀

総合文化展 ピックアップ!
Pick up!

平成館

江戸時代の上野の暮らしここにあり

徳利

9月21日(水)～12月25日(日)
考古展示室

徳利
江戸時代・18～19世紀
東京都台東区上野公園
東京国立博物館構内出土

こちらは東京国立博物館構内から出土した江戸時代の徳利です。瀬戸もしくは美濃産と考えられ、寸胴形でいびつな姿形の表面に、緑色や透明の釉が艶やかにかけられています。

江戸庶民にとって、酒は小売店で必要な量を量り売りで買う嗜好品でした。徳利は小売店から客に貸し出された大量生産の消耗品だったようです。そのため「通い徳利」や「貧乏徳利」とも呼ばれていました。

テーマ展示「上野の山の出土品」では、当館や周辺から出土した江戸時代の作品を展示しています。今年、創立150年を迎えた当館が建てられる以前の上野の暮らしをご紹介します。

（井出浩正）

法隆寺宝物館

1本の鎌から1400年の時空に思いを馳せる

重文 鎌

9月13日(火)～12月4日(日)
第4室 木・漆工―武器・武具

◎鎌 奈良時代・8世紀

身の部分が三日月形をした鉄製の鎌です。身は40センチメートルを超える長さで、鎌としては大型です。鎌は本来草刈りや収穫に用いられる農具ですが、本品は儀式用など別の用途も考えられます。

江戸時代の『御宝物図絵』には、聖徳太子が法隆寺を造営する際に使用されたと記されており、由緒ある宝物とみられていたことがわかります。また、本品の伝わった法隆寺の五重塔には、一説に雷除けとして、相輪の基部に4本の鎌が据えられており、法隆寺の「七不思議」にも数えられています。

聖徳太子の薨去から1400年の今年。1本の鎌より広がる歴史ロマンを感じてみてください。

（清水健）

黒田記念館

ひとりの画家の人生を変えた出会い

横浜本牧の景

～10月23日(日)
黒田記念室

横浜本牧の景
黒田清輝筆　明治27年(1894)

横浜本牧にある断崖状の岬は「本牧の鼻」とも呼ばれますが、本作ではその崖を含む風景が切れのよい筆致で描かれています。居留地を擁し、国内外の要人から人気の別荘地となっていた本牧で、黒田清輝は明治27年(1894)の夏を過ごしました。このとき、黒田と久米桂一郎が写生しているのを見た岡田三郎助が合流したことから、終生にわたる交流が始まります。後年、「脂っぽい暗い絵の中にあった私は、黒田師に接して急に明るみに出たような気がして来た」と回想した通り、岡田の画風は一変しました。画友の心に響いた屋外写生ならではの開放的な空気は、この作品にも漂っています。

（東京文化財研究所・吉田暁子）

トーハクの調査研究 ⑰

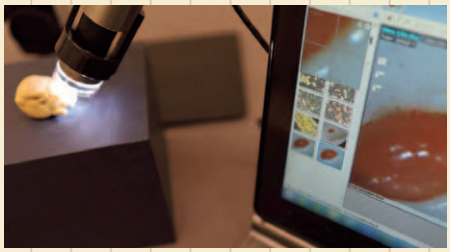
博物館の重要な使命のひとつである「調査研究」。その一端をご紹介します。

さまざまな分野研究の積み重ねで、根付研究がさらに進展

本号7ページでご紹介している「兎牙彫根付」の赤い眼。鮮やかで奥行きのある、品の良い光を帯びています。さて、これはどんな素材を使用しているでしょう?

戦前の著名な根付研究者、上田令吉によれば作者の懐玉斎正次は眼に「インド産の鳳顕(天)」を使用した、といいます。鳳顕とは何か不明ですが、近年では着色した動物の骨とも、犀鳥の嘴とする説もあります。素材の同定に関する調査は慎重に検討する必要があり、こうした可能性の絞り込みは重要課題と言えるでしょう。素材の問題は美術史だけでなく、近世の交易や流通にも関わります。いろいろな分野の研究の積み重ねから、少しずつ根付文化の土台の部分も明らかにされてきています。

（福島修）



拡大撮影による象嵌状況の調査。表面加工の詳細も見えてきます

4 茶の美術

-11/20㊐

瓢花入　仰木魯堂、原三渓旧蔵
江戸時代・17世紀　広田松繁氏寄贈
ヒョウタンをそのまま掛花入としています。
近代茶人の原三渓（はらさんけい）旧蔵品です

柿釉地染付人物文火入
中国　明時代・17世紀　広田松繁氏寄贈

3-3 禅と水墨画 ―鎌倉～室町

-10/10㊊・㊗

鍾離権・呂洞賓図
小嶋亮仙筆
驢雪鷹灞賛
室町時代・16世紀

10/12㊌-11/20㊐

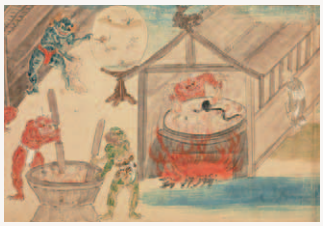
◎四季山水図
雪舟等楊筆
室町時代・15世紀
圧倒的な迫力を放つ巨大な山水図。雪舟が中国で描いた作品です

（4幅のうち夏幅）

3-2 宮廷の美術 ―平安～室町

-10/10㊊・㊗

◎星光寺縁起絵巻　巻下
伝土佐光信筆　室町時代・15世紀
お地蔵様にすがれば、地獄に堕ちても救われるというありがたいお話です



（部分）

10/12㊌-11/20㊐

伊勢集断簡（石山切）
伝藤原公任筆　平安時代・12世紀

3-1 仏教の美術 ―平安～室町

-10/10㊊・㊗

毘沙門天図像
平安時代・12世紀

10/12㊌-11/20㊐

◎孔子像
鎌倉時代・13世紀
仏教図像との関連が見える、現存稀な中世の孔子像の貴重な作例です

1-1 日本美術のあけぼの ―縄文・弥生・古墳

-12/25㊐

みみずく土偶
縄文時代（晩期）・前1000～前400年
埼玉県鴻巣市
滝馬室出土

◎埴輪　短甲の武人
古墳時代・6世紀
埼玉県熊谷市上中条出土
明治時代に出土した著名な埴輪で、復古的な武装表現が秀逸です

1-2 仏教の興隆 ―飛鳥・奈良

-10/10㊊・㊗

薬師如来立像
飛鳥～奈良時代・7～8世紀
和歌山県東牟婁郡
那智勝浦町那智山出土
北又留四郎氏他2名寄贈

-12/25㊐

銅獅子鎮柄香炉
奈良時代・8世紀
柄の末端に獅子形の重しを付けるのは、奈良時代の特色です

2 国宝室（特集 未来の国宝 ―東京国立博物館 書画の逸品―）

-9/25㊐

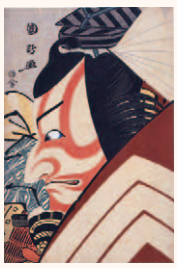
山水図屏風　呉春筆　江戸時代・18世紀

9/27㊋-10/23㊐

金胎仏画帖
平安時代・12世紀

10/25㊋-11/20㊐

市川鰕蔵の暫（碓井荒太郎貞光）
歌川国政筆　江戸時代・寛政8年（1796）
真横からクローズアップでとらえた役者の顔。大胆な構図がさえわたります



7 屏風と襖絵 ―安土桃山・江戸

9/21㊌-11/6㊐

◎鳶の細道図屏風

深江芦舟筆　江戸時代・18世紀

都を離れた男が恋人への手紙を修行者に託す『伊勢物語』「東下り」の名場面です

11/8㊋-12/25㊐

池田宿図屏風

渡辺始興筆
江戸時代・18世紀
山下新太郎氏寄贈

『平家物語』の一節。
一の谷の合戦で敗れた平重衡(たいらのしげひら)の池田宿での情景を描きます

5・6 武士の装い ―平安～江戸

9/6㊋-11/27㊐

梨地糸巻太刀（国宝　太刀　伯耆安綱「名物　童子切安綱」の拵）

江戸時代・17世紀

国宝の刀身は、東京国立博物館創立150年記念　特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」(→2・3ページ)で展示します

-11/20㊐

紅糸威二枚胴具足

江戸時代・17世紀

8-1 暮らしの調度 ―安土桃山・江戸

-11/20㊐

色絵山水鹿図平鉢

伊万里　江戸時代・17世紀

中国の色絵に倣いながら、より温和で優雅な色使いを見せています

田植取入漆絵折敷

江戸時代・18世紀
南溢氏寄贈

8-2 書画の展開 ―安土桃山・江戸

9/21㊌-11/6㊐

扇面散屏風

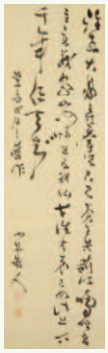
宗達派　江戸時代・17世紀　山本達郎氏寄贈

物語絵や名所絵、草花などレパートリーに富んだ扇面画が屏風に貼り交ぜられています

11/8㊋-12/25㊐

戊辰作詩

勝海舟筆
江戸～明治時代・19世紀



9 能と歌舞伎

-10/23㊐

◎縫箔
紅白段菊芦
水鳥模様

金春家伝来
安土桃山時代・16世紀

桃山刺繍の粋！女性役の表着として用いられました

10/25㊋-12/25㊐

◎能面　邯鄲男

「天下一是閑」焼印
金春家伝来
安土桃山～江戸時代・16～17世紀

「天下一是閑」の焼印が面裏にある名品です

10 浮世絵と衣装 ―江戸

浮世絵

9/27㊋-10/23㊐

扇面散図

葛飾北斎筆　江戸時代・嘉永2年（1849）

北斎90歳の作品。
細密な描写と立体表現は、北斎晩年の特徴です

10/25㊋-11/20㊐

海晏寺の紅葉狩

勝川春潮筆　江戸時代・18世紀

紅葉の名所・海晏寺で紅葉狩りを楽しむ男女をワイドな画面で華やかに描いています

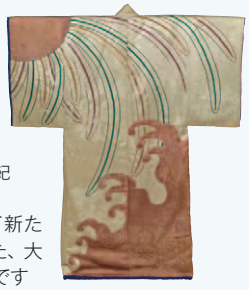
衣装

-10/23㊐

小袖 白綸子地
大菊波模様

江戸時代・17～18世紀
野口眞造氏寄贈

平成の修理を経て新たに展示に加わった、大胆な江戸デザインです



10/25㊋-12/25㊐

◎小袖 染分綸子地
若松小花鹿紅葉模様

江戸時代・17世紀

鹿子絞と刺繍で埋め尽くされた、江戸時代初期の地無小袖です

15 歴史の記録

9/6㊋-10/30㊐

◎日本沿海輿地図（中図）東北

伊能忠敬作　江戸時代・19世紀

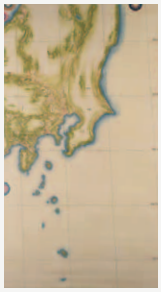
当館所蔵の伊能図は、もはや現存しない正本に最も近いとされる作品です

11/1㊋-12/25㊐

◎日本沿海輿地図（中図）関東

伊能忠敬作　江戸時代・19世紀

色使い、見る者の心を惹きつける大きさ。鑑賞作品としても秀逸です



14 特集

9/6㊋-12/25㊐（2回展示替えがあります）（→4ページ）

創立150年記念特集「未来の国宝―東京国立博物館　彫刻、工芸、考古の逸品―」

◎白瑠璃椀　ササン朝ペルシア

古墳時代・6世紀　大阪府羽曳野市伝安閑陵古墳出土　クラブ関西寄贈

正倉院宝物と瓜ふたつのガラス椀。シルクロードを通ってもたらされました

展示期間：9/6㊋-10/10㊊・㊗

青磁盤　中国・汝窯　川端康成旧蔵

北宋時代・11～12世紀

香取國臣氏・芳子氏寄贈

日本で見いだされた汝窯の盤。北宋の宮廷が焼かせたと伝わり、世界的にも稀少なやきものです

展示期間：11/15㊋-12/25㊐

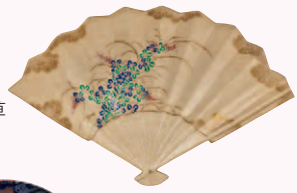
13-3 陶磁

-10/16㊐

色絵秋草文扇形皿

京焼　江戸時代・18世紀　横河民輔氏寄贈

型で扇の形につくり、繊細な色絵の秋草と金彩の雲を表しています



10/18㊋-2023/1/15㊐

色絵毘沙門亀甲文皿

鍋島　江戸時代・17～18世紀

13-2 刀剣

-10/23㊐

◎太刀　長船兼光　南北朝時代・延文4年（1359）

10/25㊋-2023/1/15㊐

短刀　粟田口吉光　（名物　毛利藤四郎）　鎌倉時代・13世紀

短刀の名手、吉光の傑作。毛利輝元が所持したのが名前の由来です

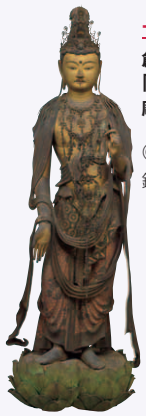
11 彫刻

-12/25㊐

創立150年記念特集「未来の国宝―東京国立博物館　彫刻、工芸、考古の逸品―」

◎菩薩立像

鎌倉時代・13世紀



◎不動明王立像

平安時代・11世紀

表情に怖さは少なく、整った衣の線に洗練された趣きがあります

12 漆工

-10/30㊐

蓮池蒔絵舎利厨子

厨子蒔絵：五十嵐作、厨子彫刻：道圓作、舎利塔：後藤程乗作　蓮華寺旧蔵

江戸時代・寛文12年（1672）

舎利塔、厨子彫刻、蒔絵それぞれの作者や制作年が知られる貴重な作例です

11/2㊌-2023/1/22㊐

創立150年記念

特集「根付　郷コレクション」

（→7ページ）

常盤牙彫根付

線刻銘「光廣」　江戸時代・19世紀

郷誠之助氏寄贈

13-1 金工

-11/20㊐

金銅蓮華形磬

鎌倉時代・13世紀

仏教を象徴する蓮の花の形をそのまま象（かたど）った仏具です

金銅臥牛香炉

江戸時代・17世紀

教育普及事業

みどりのライオン

※掲載されている催し物につきましては、今後、予告なく変更・中止する場合がございます。当館ウェブサイト等でご確認ください。また、動画配信については、公開済、公開予定のコンテンツを掲載しています。

みどりのライオン
オンライン

令和５年度東京国立博物館ボランティア募集のお知らせ

令和5年度から活動を開始するボランティアを約50名募集します（任期3年間を予定）。募集要項は11月中旬頃から当館ウェブサイトに掲載予定です。

本館でのご案内の様子

トーハクボランティアデー 2022を開催します

12月3日（土）、４日（日）に、当館でのボランティア活動を広く知っていただくイベント「ボランティアデー」を開催予定です。

ボランティアデーの様子（2019年）

＊お問合せ：TEL 03-3822-1111（代）ボランティア室
＊いずれも詳細は、当館ウェブサイトをご覧ください。

オンライン　ギャラリートーク

「創立150年記念特集　時代を語る洋画たち ー東京国立博物館の隠れた洋画コレクション」

講師：沖松 健次郎（列品管理課長）

著名な作品の影に収蔵される当館の洋画コレクションの中から、博物館の歴史や時代ごとの特徴を物語る作品について、収蔵経緯から読み解いていきます。

「武士の芸術ー甲冑ー」

講師：佐藤 寛介（登録室長）

日本の甲冑は、合戦で身を守るための機能性と、活躍をアピールするための装飾性を兼ね備えています。武士の芸術ともいえる甲冑の魅力をご紹介します。

「知られざるチベット仏教の美術」

講師：西木 政統（絵画・彫刻室主任研究員）

ヒマラヤの北側に広がるチベットは、特色ある仏教文化で知られます。日本では触れる機会の少ないチベット仏教の美術について、当館所蔵作品をもとにご紹介します。

チャクラサンヴァラ父母仏立像
中国・チベットまたはネパール　15～16世紀　服部七兵衛氏寄贈
平成館企画展示室にて9月19日（月・祝）まで展示

ご自宅等でお楽しみいただけるよう動画をYouTubeで配信しています。

東京国立博物館
YouTubeチャンネル

※月例講演会は当館大講堂にて実施しております。詳細は当館ウェブサイトでご確認ください。（事前申込制）

16　アイヌと琉球

-11/13㊐
ニンカリ（耳飾）
北海道アイヌ（網走）　19世紀

11/15㊋-2023/1/29㊐
ジーシガーミ（厨子甕）
沖縄本島　壺屋焼
第二尚氏時代・19世紀
壺屋焼の骨壺で、貼付や線彫による多彩で細かな装飾が見どころです

18　近代の美術

10/4㊋-12/25㊐
町田久成像
竹内久一作　大正元年（1912）
今泉雄作氏寄贈
当館の初代館長。後に出家して園城寺（三井寺）光浄院の住職となりました（→12ページ）

（部分）

11/15㊋-12/25㊐
明粧
土田麦僊筆　昭和5年（1930）
片山芳子氏寄贈

創エネ・あかりパーク® 2022開催

光のイベント「創エネ・あかりパーク®2022」が、今年も上野公園を会場に開催します。当館でも、本館への特別ライトアップを11月2日（水）～6日（日）に実施します。展示のご観覧とあわせてお楽しみください。

2021年の様子

※イベントの詳細についてはhttp://www.akaripark.com/をご確認ください。
※イベントの開催は変更となる可能性があります。

TNM & TOPPAN ミュージアムシアター

VR作品『故宮VR 紫禁城・天子の宮殿 TNM & TOPPAN ミュージアムシアター編』10月16日（日）まで

中国北京市の中心に位置する故宮博物院は、かつて明・清時代の歴代皇帝が政治を行い、生活を送った「紫禁城」でした。本作品は、当時の紫禁城を再現。「太和殿（たいわでん）」、「養心殿（ようしんでん）」、「倦勤斎（けんきんさい）」の3つの宮殿をご案内します。

＊日中国交正常化50周年記念　特別デジタル展「故宮の世界」（→11ページ）セット券：1,800円

料金：一般・大学生・高校生：600円、小学生・中学生：300円、未就学児・障がい者とその介護者各1名は無料（1作品／1回あたり）、別途入館料が必要です。開演時間までにチケットをお買い求めください（当日券のみ）。

※所要時間 約35分です。

〔予告〕VR作品『雪舟一山水画を巡る一』（仮）
10月19日（水）～12月25日（日）（予定）

※演目・スケジュール・定員は、都合により変更もしくは休演となる場合がございます。
※詳細、最新の情報はウェブサイト（https://www.toppan-vr.jp/mt/）をご覧ください。

創立150年記念トートバッグをプレゼント

創立150年記念ロゴマークをあしらったオリジナルトートバッグを15名様にプレゼントします。締切は12月12日（月）必着。

＊プレゼントの応募方法

はがきに郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、年齢、ならびにこの号で1番おもしろかった記事をご記入のうえ、下記までお送りください。発表は発送をもって代えさせていただきます。

※トートバッグは1種類のみです。販売はしていません。

〒110-8712　東京都台東区上野公園13-9
東京国立博物館 広報室「ニュース9・10・11月号」プレゼント係

休館・閉室情報

展示環境整備のため、展示室の一部を以下の通り閉室します。

本館 特別1室・特別2室：11月1日（火）～2023年5月28日（日）
本館 高円宮コレクション室：11月8日（火）～12月25日（日）

Music Program TOKYO まちなかコンサート ～芸術の秋、音楽さんぽ～

都内の文化施設と連携した新進演奏家によるコンサート「Music Program TOKYO まちなかコンサート」を今年も開催します。

日時：9月28日（水）14:00～／15:00～（各回約20分）
会場：本館 大階段
出演者：東京音楽コンクール入賞者による弦楽四重奏（予定）
料金：無料（ただし、当日の入館料が必要）
主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京文化会館・アーツカウンシル東京
お問合せ：東京文化会館事業係
（TEL：03-3828-2111）
※土・日曜、祝日は除く

2021年の様子

第17回台東区の伝統工芸職人展

平成館ラウンジにて「台東区の伝統工芸職人展」を開催します。

日時：10月2日（日）～10月5日（水）
料金：無料
（ただし、当日の入館料が必要）
お問合せ：台東区産業振興課
伝統工芸担当
（TEL：03-5246-1131）

2018年の様子

※新型コロナウイルス感染症拡大状況により、中止や変更となる場合があります。

宇宙飛行した遮光器土偶フィギュアを展示

当館所蔵の重要文化財「遮光器土偶」（青森県つがる市木造亀ヶ岡出土）のミニチュアフィギュアの宇宙飛行が、2021年、野口聡一宇宙飛行士3回目の国際宇宙ステーション（ISS）滞在中に実現しました。現在当館では、日本の文化財フィギュアとして、初めて宇宙を旅した遮光器土偶を展示公開しています。10月2日（日）までは野口宇宙飛行士が使用していた宇宙服を、10月4日（火）からはISSで使用した業務指示書をあわせて展示します。

展示の様子

期間：2023年4月2日（日）まで
場所：平成館1階考古展示室前

※野口聡一宇宙飛行士は、「世界で初めて3種類の帰還（滑走路、地面、海面）を達成した宇宙飛行士」としてギネス世界記録に認定。国際宇宙ステーション（ISS）滞在通算日数335日、船外活動4回は日本人最多。

9・10・11月の休館日情報

休館日	9月	10月	11月
	5日、12日、20日、26日	3日、11日、17日、24日、31日	7日、14日、21日、28日

※金曜・土曜は20:00まで開館（総合文化展は17:00閉館）
※開館時間、休館日等の最新情報は当館ウェブサイトをご覧ください。

◆東京国立博物館利用案内

総合文化展観覧料金　一般1,000円、大学生500円

- 事前予約は不要です。
  ※混雑時には展示施設前でお待ちいただく可能性があります。
  ※特別展の入館方法は展覧会ごとに異なります。
  詳細は展覧会公式サイトをご確認ください。
- 障がい者とその介護者1名は無料。
  満70歳以上、高校生以下および満18歳未満の方は無料。
- 敬老の日（9月19日〈月・祝〉）、文化の日（11月3日〈木・祝〉）は、総合文化展のみ観覧無料。

詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。

最新情報は、ウェブサイト、Facebook、Twitter、Instagram、メールマガジンで！
東京国立博物館ウェブサイト
https://www.tnm.jp/

◆東京国立博物館賛助会員（寄附会員制度）募集のご案内

東京国立博物館の運営の趣旨にご賛同いただける団体・個人向けの寄附会員制度です。寄附金控除の対象になります。

【主な特典】 特別展内覧会へのご招待 など

【年会費】 〈団体〉プレミアム会員 1,000万円以上、特別会員 100万円（1口）、維持会員 20万円
〈個人〉プラチナ会員 100万円以上、ゴールド会員 20万円、シルバー会員 5万円

【申込方法】 会員受付窓口、ウェブサイト（クレジットカード決済）、銀行振込
詳細は担当までお問合せください。

◆東京国立博物館会員制度

東京国立博物館では、1年間のうち何度でもご来館いただける会員制度をご用意しております。

友の会

発行から1年間有効 年会費：7,000円

【特典】 東京・京都・奈良・九州の国立博物館の総合文化展・平常展を何度でも観覧可能。東京国立博物館の特別展観覧券を3枚と、ミュージアムシアター観覧券1枚、ショップ・レストラン割引などさまざまな特典があります。

＊2021年4月以降にお申込みの方で、本誌の郵送をご希望される場合は、別途「東京国立博物館ニュース」の定期購読をお申込みください。

国立博物館メンバーズパス（4館共通）

発行日から1年間有効 年会費：一般2,500円、学生1,200円

【特典】 東京・京都・奈良・九州の国立博物館の総合文化展・平常展を何度でも観覧可能です。

東京国立博物館ニュース定期購読

年会費：1,000円（1年分）

【特典】 東京国立博物館ニュースを年4回、1年分ご指定の場所に送付いたします。＊次号（12−2月号）より送付をご希望の場合、締切は2022年11月10日（木）です。

○申込方法

1. 会員受付窓口
   当館正門前の会員受付窓口で即日発行し、当日からご使用いただけます（現金またはクレジットカード、電子マネー）。
2. ウェブサイト
   専用申込フォームからお申込みください（クレジットカードまたは郵便振替〈振替用紙を送付〉）。
3. 郵便振替
   - 振替用紙に①種別（友の会、4館共通、ニュース）、②区分（一般、学生〈4館共通のみ〉）、③メールアドレス（メールマガジン希望者のみ）、④郵便番号、⑤住所、⑥氏名（ふりがな）、⑦電話番号を通信欄・ご依頼人欄にご記入の上、下記口座までお振替ください。
     加入者名：東京国立博物館会員制度
     口座番号：00140-3-791791
   - 友の会または国立博物館メンバーズパス（4館共通）にお申込みの方で、「東京国立博物館ニュース」の送付をご希望の方は、振替用紙に『東京国立博物館ニュース定期購読希望』とご記入のうえ、各会費に追加料金として1,000円を加えた金額をお振替ください。
   - 振替用紙の半券が領収書になります。有効期限終了まで保管してください。
   - 振替手数料はお客様負担となります。
   - ご入金確認日より会員証等がお手元に届くまで、2週間程度かかります。

＊一度納められた料金の払い戻しはいたしません。

＊お申込みに際してご提供いただいた個人情報は、当該目的にのみ使用させていただきます。当館は個人情報に関する法令を遵守し、適正な管理・利用と保障に万全を尽くします。

⊙お問合せ

電話 03-3822-1111（代）／ FAX 03-3821-9680
総務課渉外開発担当
＊月～金曜日の9:30～17:00（土日・祝休日は除く）

表紙の名品

2022年9月・10月・11月号

金剛力士立像

10月18日（火）～ 12月11日（日）

平成館特別展示室

平安時代の貴重な仁王像、東博に新たなスター誕生！

金剛力士は別名仁王（二王）と言い、お寺の門の左右に立って、邪悪なものの侵入を防ぐ守護神です。修学旅行で奈良県の東大寺大仏を見に行かれた方は、大仏殿の手前の門で大きな仁王像をご覧になったはずです。

ここでご紹介する仁王像は、今年はじめに当館が購入したものです。これまで展示できる仁王像はなかったので、今後、展示室で皆様の注目の的になることを期待しています。邪を払いつつ、多くのお客様を迎えてほしいものです。

金剛力士の源流は、ガンダーラに遡ります。表紙の像阿形が左手に持つのは金剛杵という武器で、これを持つ神である、執金剛神がガンダーラで生まれました。体によろいを着ける姿で、日本にも東大寺などによろいを着けた執金剛神像があります。しかし、6世紀の中国で上半身裸の像がつくられました。筋骨隆々とした肉体で強さを見せつけるためでしょう。この着甲、裸形の両者が日本に伝わり、上半身裸の像が主流になりました。

この像はかつて滋賀県栗東市・蓮台寺の仁王門に置かれていましたが、昭和9年の室戸台風で門もろとも倒壊し、ばらばらになってしまいました。お寺は廃絶、壊れた状態の部材すべてを昭和43年に美術院（仏像の修理をする機関）が譲り受け、保管していたのです。今回2年かけて修理し、もとの姿に戻りました。台風被害の後、散乱した仁王像の部材を集めて30年以上保管した地元の方々のおかげで貴重な文化財が守られたのです。

この像に使われた木の年輪を奈良文化財研究所が年代測定したところ、12世紀に伐採されたこと、もっとも新しい部材は1173年とわかりました。伐採から間を置かずにつくられたと考えられます。像の下方に伸ばした腕に帯が巻き付いています。これは背後、頭の上に風を受けて翻っていたはずの長い帯の一部です。そして、下半身に着ける裳の上端に太い縄を巻いています。これらの表現は平安時代後期の金剛力士像に見られるものです。

今秋の東京国立博物館創立150年記念　特別展「国宝　東京国立博物館のすべて（→2・3ページ）」で、最新の所蔵品として初めて展示します。

（浅見龍介）

金剛力士立像
平安時代・12世紀
右：阿形像高279.0cm
左：吽形像高275.5cm

約3mもの高さで迫力満点！ 特別展会場では背中もお見せします。仁王の背中は滅多に見られません

東京国立博物館ニュース 第770号　2022年8月19日発行（年4回発行）
編集／東京国立博物館 広報室 ©東京国立博物館　発行／東京国立博物館　〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9　デザイン／D_CODE　制作／凸版印刷株式会社
＊ウェブサイト https://www.tnm.jp/　独立行政法人国立文化財機構ウェブサイト https://www.nich.go.jp/